

1990年

一月早々に北京の戒厳が解かれ、交流は活発を取り戻した。北京ではアジア競技大会が開催され、これに伴う都市開発で北京市北郊の様相が一変した。日本ではバブル経済の崩壊が始まる。八月にイラクがクウェートに侵攻、国連が多国籍軍を組織してこれに対峙、戦雲が立ち込め



阿倍仲麻呂を顕彰する望月望郷詩碑を、日本書道院、日中文化交流協会、鎮江市人民対外友好協会などが共同して鎮江市北固山に建立した。除幕式に出席した(左から)沈鵬中国書法家協会副主席、田中凍雲日本書道院会長・協会常任理事、白土吾夫専務理事の諸氏



野村好弘団長(左一)ら日本「民法・環境法」学者訪中団が訪中、王家福所長(右一)ら中国社会科学院法学研究所の研究者諸氏と学術交流を行なう一行。1979年に加藤一郎氏らによって始められた同訪中団の交流は、現在も続いている

—1990年8月29日 北京

た。十月、東西ドイツが統一。

◎ 3月 「日中婦人書道交流貴陽展」

(当協会、日本書道院等主催)、開幕式参加訪中団(田中凍雲団長)訪中。「山東電化石彫刻・中国地質博物館工作组(黃正之団長) 来日。「第七回中国書道研究会」訪中団(武士桑風団長)訪中。

◎ 4月 中国国家文物局代表团(張徳勤局長、宋北杉、遼寧郷の諸氏) 来日。中国人民対外友好協会代表团(韓叙団長、于是之、蔡壬癸、吳瑞鈞、王雲濤の諸氏) 来日。日本演劇人訪中団(内田喜三男団長、秤屋和久副団長、勝野

英雄、尾藤俊治、竹内照夫、橋村琢哉、小牧ゆう、東夫佐子の諸氏) 訪中。「中国和歌俳句研究会成立大会」日本歌人・俳人訪中団(近藤芳美団長、金子兜太、中野菊夫両副団長、窪田章一郎、近藤とし子、金子皆子、佐藤祥子らの諸氏) 訪中。

◎ 5月 中島京子故中島健蔵会長夫人一行(中島京子、白土吾夫、佐藤純子、矢永浩子の諸氏) が訪中。團伊玖磨氏が大連で「日中友好文化交流コンサート」。

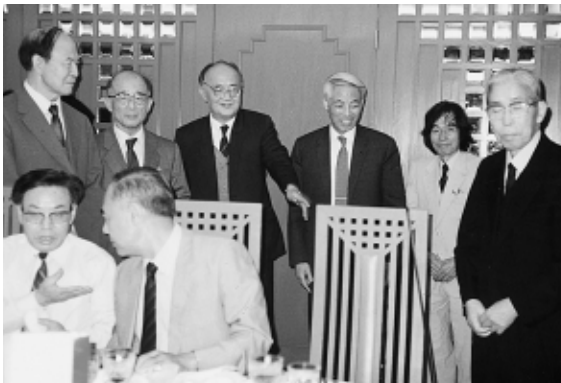
◎ 6月 日本出版印刷代表团(相賀徹夫団長、小林武彦、原田稔、前田伸治、



話劇「天下第一楼」を上演。一九八三年の「茶館」につづく、北京人民芸術劇院の再度の訪日公演。北京ダックの老舗をモデルとした北京の庶民生活を描いた舞台は多くの観客を魅了した

岡内實生、佐藤祥子の諸氏) が訪中。
◎ 7月 日中共同企画「中国可可西里地域総合科学探険隊」が北京を出発、当協会などが後援。岐阜メモリアルセンターで「山東電化石彫刻」完成式、梶原拓知事、加藤巳一郎中日新聞会長、白土吾夫当協会専務理事の諸氏及び中国代表团(王沢九団長) が出席。松山市中学生訪中団(団長・崎山昌昭松山市都市整備部部长) 一行十一名訪中。
◎ 8月 日本少年野球選手団(川村富男団長) 訪中、当協会が協力。日本「民法・環境法」学者訪中団(野村好弘団長、石外克喜、畔柳達雄、加藤美穂子、劉得寛、三田地宣子、土田哲也、安次富哲雄、植木紹雄、浅野直人、新美育文、大川省藏、北河隆之、原信之の諸氏) 訪中。
◎ 9月 日本・現代俳句協会代表团(金子兜太団長、金子皆子、小宅容義副団長、牧石剛明秘書長、佐藤祥子秘書) 一行十五名訪中。東京で「日中刻字交流展」(主催、日本刻字協会、中国書法家協会。当協会など後援) 開幕。巴金氏、「第一回福岡アジア文化賞創設特別賞」受賞。日本作家代表团(三浦哲郎団長、秋山駿、高井有一、黒井千次、横川健の諸氏) 訪中。中国文学芸術界連合会代表团(馬烽団長、梁光弟副団長、陳清泉、施万春、潘虹、李世南、秘書兼通訳・趙平の諸氏) 来日。金原出版(金原秀雄社長) が中華医学会に第十七次学術医学圖書を贈呈、当協会が協力。
◎ 10月 松山市民体育代表团(平井亀

—一九九〇年十一月 東京



「中国文物愛好者」訪中団の圓城寺次郎団長(右一)を歓迎し、多くの親しい友人が一堂に会した。(後左から)馬洪國務院經濟發展研究中心一総幹事、孫平化中日友協会長、胡繩中国社会科学院院長、韓叙対外友協会長、張文閣外事局長(前左)、孫尚清副総幹事(前右)の諸氏。加山又造氏(右二)と
——1990年10月20日 北京



対外友協の韓叙会長(前左三)、葛綺雲夫人(後左一)、陳昊蘇副会長(前右一)、王效賢副会長(後中)、吳瑞鈞副秘書長(後右)と歓談する協会代表団の團伊玖磨団長(前左二)、團和子夫人(前左四)、白土吾夫副団長(前右四)、利根山光人(前右二)、矢代静一(前右三)、井出孫六(前左一)の諸氏
——1990年12月19日 北京

〈右〉作家の鄧友梅氏(左一)を自宅に訪ね、北京市民の生活などについて話を聞く日本作家代表団の(右へ)三浦哲郎団長、黒井千次、高井有一、秋山駿の諸氏。鄧友梅氏は、日中戦争中、十四歳で日本へ強制連行され、徳山の工場で労役に服した経歴を持つ。そのときの体験を描いた作品『さよなら瀬戸内海』が日本でも翻訳出版されている
——1990年9月17日 北京



◎11月 中国書法家協会代表団(邵宇団長、王学仲副団長、歐陽中石、喬仁和、王振華の諸氏) 来日。北京人民芸術劇院「天下第一樓」訪日公演、民主音楽協会、朝日新聞社主催、当協会後援。日本「美術評論家」代表団(鈴木進団長、田中穰、海上雅臣、ワシオ・トシヒコ、島田康寛、大塚雄三、

雄団長)一行三十五名訪中。日本「中国文物愛好者」訪中団(圓城寺次郎団長、加山又造、加山みどり、坂本五郎、室伏章郎、木村祐吉、笹津悦也、大根田信雄、木村美智子秘書の諸氏)訪中。中国石窟シリーズ完結を祝い、平凡社(下中弘社長)の招きで中国・文物出版社の王仿子前社長、高履芳前副社長、楊瑾社長の諸氏が来日。日本文化界団基代表団(江崎誠致団長、新海洋子、竹之内静雄、八匠衆一、前野昭吉、伊藤礼、伊藤啓子、斎藤宜郎、笠原淳、白川正芳、大門武二、大島正雄、西村春海、湯川恵子、中野暁、馬場隆の諸氏)訪中。中国演劇家代表団(趙尋団長、常香玉副団長、梅紹武、張継青、孫萍、李振遠、祝歆の諸氏) 来日。

遺唐使船の帰路の出港地に近く、山容が奈良の三笠山に似るといわれる鎮江・北固山に、阿倍仲麻呂の歌を刻んだ「望月望郷詩碑」が建立された。中国の山野に立つ、協会の名を刻んだ石碑がこれだ二つになった。もう一つは一九八二年、浙江省余姚市竜泉山に建てた「朱舜水先生記念碑」。前者は日本書道院、鎮江市人民対外友好協会等との共同建立。後者は水戸で没した明末の儒学者・朱舜水の故郷に、逝世三百年を記念して日本・朱舜水先生記念会と共同建立したものだ。石に文字を刻んで記念碑を立てることは、日本の場合、おそらく中国から学んだのだろう。それは、限りある人の、永遠なるものへの憧憬か、石碑には、朽ちることなき存在が期待されている。

秘書・小暮貴代の諸氏) 訪中。日本音楽家代表団(伊藤京子団長、三善清達、小林武史、高丈二、大和田葉子、佐藤祥子秘書の諸氏) 訪中。
◎12月 江蘇省鎮江市の北固山に阿倍仲麻呂を顕彰する「望月望郷詩碑」が完成、日本書道院、当協会と鎮江市人民対外友好協会などが共同で建立、除幕式に日本書道院訪中団(団長・田中凍雲会長、顧問・白土吾夫当協会専務理事)一行百二十名が出席。日中文化交流協会代表団(團伊玖磨団長、團和子、白土吾夫副団長、利根山光人、矢代静一、井出孫六、佐藤純子の諸氏) 訪中。